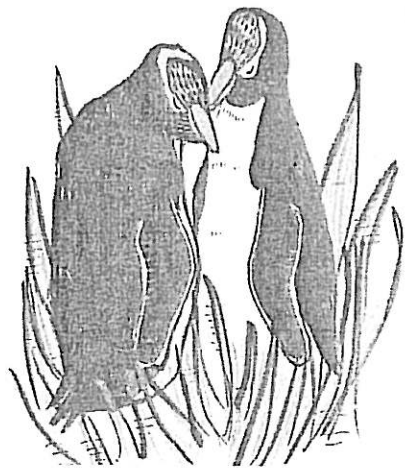


繁殖について

雌鳥は生理的に2歳、雄は3歳で成熟します。死ぬまで受精可能です。毎年繁殖が可能だといわれています。雌雄共に繁殖に成功すればお互いに忠誠を保ち、不成功の時は”離婚”になることが多いです。

各番いは巣の近辺で自分の領地を広く持つ習性があり侵入者に対して強く攻撃します。

9月半ば頃、大抵2個の卵を産みます。そして、両親は交替で6週間卵を暖めます。11月初めに雛が生まれ、両親は3か月半餌を与えます。2月には羽が生え揃い巣立ちします、この時を少年期（ジュベナイル）と呼びます。



少年期

この時期の鳥は眼の虹彩は灰色で、頭にはまだ黄色のバンドが見られないので成熟した大人の鳥と容易く見分けがつきます。親を離れて3-4か月位は海で魚を獲る事を習いますが、どこに行くかについてあまり知られていません。約48パーセントは平均して繁殖年齢に達していると考えられています。6月になると最初のペンギンが海岸に姿を現わし、若い鳥は海岸線に沿ったコロニーをあちこち訪れます。羽毛が生え揃って一年後に初めて羽の再生期をむかえます。その時、頭に黄色いバンドが現われ、眼の虹彩も黄色になりこのペンギンの特徴が出て来ます。この時から大人の仲間入りです。

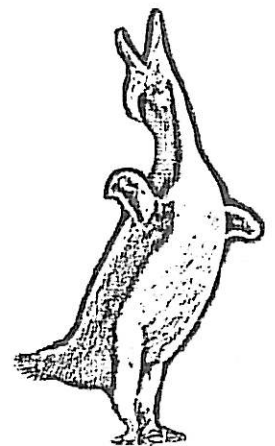


羽毛の抜け変わる時期

すべてのペンギンは一年に一度羽が抜け変わる時期を過ごさなければなりません。二月になると、少年の鳥と未繁殖の鳥はこの時期を迎えます。そして、繁殖の大人の鳥は、雛が成長して親を離れ海に旅立った頃、つまり三月か四月に羽が抜け変わる時期を迎えます。4週間で古い羽はすべて新しい羽に変わります。この間ずっと何も食わず飲まず、体内に貯えてある脂肪をたよりに耐え抜きます。この初めの時期に7-8キロ位の体重だった鳥は終り頃には、体重が半分になります。新しくなった羽毛は尾の先の油腺から油を体中に塗って防水にします。

鳴き声

マオリ人はイエローアイド・ペンギンを”ホイホ”と呼びました。それは”騒音叫び”という意味です。有頂天になって叫ぶ声は近くでは耳を突く様に聞こえますが、これは挨拶であったり、領地要求であったり、求愛や威嚇であったりします。又時々、短く鳴いて話しかけたりします。



感覚

ペンギンの感覚の中で一番鋭いのは視覚で、水中でも空中でも鋭い網膜によって見る事が出来ます。聴覚もかなり良いです、しかし臭覚は鈍いほうです。

食べ物

毎日、海岸から5キロから25キロ離れた海に単独或いは、対で出かけます。コロニーを日の出に出發して大抵夕方戻りますが、時には一晩帰らない事もあります。今までに最も深く水中に潜った記録は123メートルです。しかし、平均は大体50メートルです。潜っている時間は2分から5分位で短いです、水上で2-3秒間息を吸って又潜りこれを繰り返します。主ににしん類の小魚を獲って食べます。若い鳥はレッドコッド（たら的一种）やいかを食べます。すべての餌は頭から先に飲み込み難く与える時に吐き戻します。



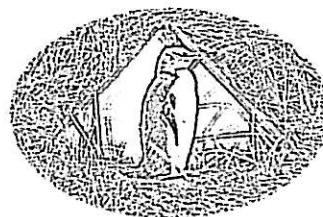
イエローアイド・ペンギン (きがしらペンギン)

ペンギンコロニーによろこそ！イエローアイド・ペンギン（黄色い目をしたペンギン）がこの特別保護地域に棲息しています。1995年と1997年にニュージーランド国からエコ・ツーリズム賞（エコロジック観光）を授与されました。このペンギンを保護し維持していくためには 皆様がここにお出になってこのガイドの案内によって見て頂く必要があります。皆様の御関心と御協力に対して心からお礼を申し上げます。

イエロー・アイドペンギンについて御説明いたします。

1985年にハワード・マグルーサー氏とスコット・クラーク氏によってこのコロニーが開設されました。当時、イエローアイド・ペンギンは繁殖出来るペンギンではたったの8番目でした。しかし 去年は22番目もありました。これは南島にあるコロニーの中で最も多いものの一つでした。このコロニーの中をガイドの案内でペンギンをま近にご覧下さい。あちこちに覆いのあるさんごうがありますが、そこを通過して観察小屋からペンギンに気づかれない様にペンギンの自然のままの生態を観察して頂きます。

ここで棲息しているペンギンは各々特徴があります。各々のフリッパー（水かき）に金物の輪がはめられていて、名前もつけられています。従って、すべてのペンギンは細かく記録され、保護されています。この保護地域は羊牧場の中にありますので、ペンギンの繁殖地域を広くすると共に羊の放牧にあまり影響を与えないように努めています。毎日行われている保護作業のやり方はほとんどここで考えられて発展しました。このコロニーの中にペンギン用の巣箱を設置して、それが日除けや隠れ家になり繁殖を成功させるのに大切な役割を果たしています。更に巣箱は外国から来たてんやいたちや野良猫のような天敵から保護します。その他、耐えざるをかけてペンギンのひなを守っています。夏の日照りを避ける為に新たに藪や小木を植えたりします。それから、怪我をしたペンギンや親のない雛鳥は特別に作られた非難所で世話をされ今までに良い成果をもたらしていますこの珍しい鳥の繁殖を成功させる為詳しく記録したり、観光事業による影響を考えたり、いろいろな研究が行われています。これに関する詳細は展示場にある展示物をご覧下さい。



なお、写真の撮影に関して、コロニーのガイドの指示によってお願い致します。

コロニー内ではフラッシュはどうぞお使いにならない様にお願い致します。なぜならペンギンの目は光に敏感ですし、ペンギンを脅かすことにもなりかねませんのでご協力をお願い致します。私共の店にありますフィルムで400 ISO/ASAを御薦め致します。次にペンギンを怖がらせない為になるべく小さい声で、あまり大きな音をたてない様に、いつもガイドの指示によってお願い致します。どうぞペンギンをご覧になってお楽しみ下さい。

その他のイエローアイド・ペンギンについて。

イエローアイド・ペンギン(*megadyptes antipodes*)はマオリ語で "ホイホ" (騒音叫び) と呼ばれて来ました。身長は65-70センチでペンギンの中では3番目に高いです。体重は5-6キロです。寿命は20-25年です(過去の最年長の記録は32年)が、平均寿命は12年から15年位です。

イエローアイド・ペンギンは眼球の虹彩が黄色で頭に黄色のバンドがあることからその名がついています。ニュージーランドにのみ住んでいて、世界でも非常に珍しく、総数で5000羽から6000羽ぐらいです。このうち4分の1が南島の東海岸とスチュワート島にのみ住んでいます。ほとんどの鳥は南に600キロぐらい離れた孤島のキャンベル島とオークランド島に住んでいます。イエローアイド・ペンギンは、他のペンギンと比べて生物学的に色々な点で異なっています。この種のペンギンだけが手なずける事が出来ません。元来、海岸に沿った森に棲息していましたが、過去150年に亘って広大に伐採された為イエローアイド・ペンギンの数が今では少なくなり森の跡や海岸の藪に追いやられてしまいました。

